

大阪は「まち」がほんまにおもしろい

# 大阪 OSAKA あそび歩 ASOBO

## ⑧ 南海難波駅

明治18年(1885)12月、純民間資本として現存する日本最古の私鉄・阪堺鉄道(現南海電鉄)の起点駅として開業しました。駅名は西成郡難波村に由来しています。現在の四代目駅舎南海ビルディングは、昭和7年(1932)7月竣工、鉄道省初代建築課長でもあった久野節設計の昭和初期を代表する大型近代名建築です。地下鉄難波駅、大阪難波駅、JR難波駅を合わせた1日の平均乗降者数は、日本で10番目に多い867,923人(2008年)で、日本を代表するターミナル駅です。

## ⑨ 高島屋大阪店(本店)

高島屋は、天保2年(1831)京都烏丸松原にて初代飯田新七が古着・木綿商(屋号「たかしまや」)として創業しました。屋号は飯田新七の養父・儀兵衛が、近江国高島郡(現在の滋賀県高島市)の出身であることに由来します。明治30年(1897)宮内省御用達に、明治31年(1898)心斎橋筋に大阪店を開店、大正11年(1922)長堀橋に移転した後、昭和7年(1932)に現在地の南海店が開業しました。日本で初めて冷暖房を完備した百貨店で、客席数1,000席の「東洋の大食堂」を有しました。再編が進む大手老舗百貨店では数少ない独立系百貨店で、単独ブランドでは業界一の売上高を誇ります。平成19年(2007)朝日新聞のアンケート「好きな百貨店」では、第一位に選ばれました。

## ⑩ 戎橋筋商店街

戎橋は、道頓堀川の開削とほぼ同時に架けられ、橋筋が今宮戎神社への参道だったことから、戎橋と名付けられたと考えられています。橋の南側に操り芝居の小屋があったことから、古くは操橋とも呼ばれました。周辺の町人たちが維持管理してきた町人橋で、大芝居街・道頓堀や今宮戎へ向かう多くの人々が往來したため、元禄7年(1694)から明治11年(1878)の鉄橋に架け替えるまでに、計13回の修理および架け替え工事が行われています。平成19年(2007)に現在の橋が完成、ミナミの町衆が橋の袂に銘文を取り付けました。「宝恵駕に雪がちらつく戎橋」(よしの)

# 吉兆もろて、めでた顔なる、えべっさん ~今宮戎神社から戎橋筋商店街まで~

「商売繁盛笹もってこい!」大阪人の一年は、今宮戎神社の十日戎で始まります。今宮、木津、難波のあたりは中世以前海辺に面し、えびす様も元来は漁業の守り神でした。大阪が商売のまちとして発展していくにつれて、大阪の商業を守る神として崇敬されるようになります。現在の十日戎は、毎年100万人を超える参拝者で賑わいます。まことにめでたい福徳の神、今宮戎の参詣道を歩いてみましょう。

## ① 今宮戎神社

天照皇大神、事代主命、ほか三神を祭神とし、事代主命がえびすとされて特に信仰を集めています。推古天皇8年(600)、聖徳太子が四天王寺の建立に当たり、同地西方の鎮護としてお祀りされたといわれています。当地は古来「津江の庄」(今宮庄)などと呼ばれた漁村で、えびすも元来は漁業の守り神でしたが、平安後期から開かれた四天王寺西門前「浜の市」の市の守り神として奉斎され、やがて貨幣経済の発展とともに商売繁盛、福徳円満の神として篤く信仰されるようになりました。毎年催される1月9日宵宮祭(宵えびす)、10日大祭(本えびす)、11日後宴(残り福)の十日戎の祭事は、元禄年間(1688~1704)には現在に伝わる形が調ったといわれ、寛政6年(1794)の「住吉名勝図会」には人波でござった返す境内の様子が描かれています。江戸期以来、宵えびすに難喉場魚市場が大鯛(雌雄一対)を奉献して、大漁と商売繁盛を祈願することが吉例になっており、現在は木津地方卸売市場の人々が十日戎鯛献神事を奉納しています。

## ③ 木津地方卸売市場

近世、難波村、木津村、今宮村などは畑場ヶ村と呼ばれ、大坂三郷への供給地として青物の一大産地でした。当時大坂の青果取引は、天満青物市場が官許を受けて独占していましたが、島之内や船場の大消費地に対して便が悪く、正徳年間(1711~1716)頃より、自然と百姓市が生まれました。百姓たちは何度も立売許可を出願しては却下、無断開設しては撤去を繰り返しましたが、文化6年(1809)に難波村、文化7年(1810)に木津村が、大坂代官篠山十兵衛景義の斡旋により天満青物市場と示談が成立、官許されました。村民たちは篠山の威徳を貴び、生き神様として篠山神社を難波八阪神社の境内に奉祭しています。大正12年(1923)には中央卸売市場法が施行されて、閉鎖が命じられますが、激しい存置活動の末、昭和6年(1931)に大阪中央市場配給所木津難波市場として自主運営が認められました。昭和20年(1945)に空襲を受けて廃墟となりますが、再開。昭和48年(1973)に大阪木津地方卸売市場と改称、現在民営の卸売市場としては、全国有数の取り扱い実績を誇ります。

## ⑤ 「鮫川くり船発掘の地」の碑

鮫川(いたちかわ)は、大坂三郷の南端を西から東に流れ、七瀬川(現在は埋め立てられています)、さらに木津川に合流していた川です。聖徳太子が四天王寺建立の際、諸国より木材をこの海岸に集め(「木津」の由来)、運搬のために掘った運河といわれています。昭和29年(1954)に埋め立てられました。明治12年(1879)に道頓堀川から難波御蔵(現・なんばパークス)まで流れていた難波新川が、明治31年(1898)に同じく道頓堀川から天王寺御蔵跡(現・御蔵跡物問屋街)まで流れていた高津入堀川が、鮫川まで延伸、連結。難波新川の貫通工事中に、古墳時代に航海用に使用していたと推定される全長12m程の大型複材くり船が発掘されたことを記念して、この碑が建てられました。明治33年(1900)から昭和55年(1980)まで使われていた旧町名の船出町は、これに由来しています。

## ※ 難波(なんば)村

難波の地名の由来となった西成郡難波村は、近世以前は南船場・島之内・新町・堀江の一角にあり、上難波村(南船場)と下難波村(他)に分かれていましたが、大坂城下町の拡張に伴い道頓堀以南へ移動となり、元禄13年(1700)上難波村飛地を下難波村に編入し、難波村と改称されました。享保10年(1725)の立売願書に「難波村の儀、畑方に御座候故、冬・春は麦作凡六分通り、菜、大根、ねぶか、にんじん、わけぎ、かしげえ類凡四分通り、夏・秋は藍、木綿昨凡六分通り、茄子、干瓢、白瓜、冬瓜、其外時々之青物は年中不絶耕作仕候」とあるほど、畑作が盛んでした。特に、葱のことを「なんば」というほど、難波葱は有名で、九条葱の原種だといわれています。明治30年(1897)、北は湊町、西は木津川、南は鮫川、東は日本橋までの難波村全域が大阪市南区へ編入されました。

## ⑥ 難波御蔵・難波新川跡の碑

難波御蔵・・・  
享保17年(1732)の大飢饉に際して、天領からの年貢米を収納して、飢饉時の救援米や幕臣への扶持米を備蓄するための、幕府直轄の米蔵が設置されました。寛政3年(1791)、同じく幕府直轄の天王寺御蔵を合併して南に拡張。東西70間(約127m)、南北180間(約327m)の敷地に、米蔵十数棟を有しました。四方に松並木と白い土塀が続く広大な敷地は、「浪花百景」にも描かれるなど浪花名所の一つでした。明治維新後は大蔵省の所管となり、日露戦争が始まった明治37年(1904)に難波御蔵は解体、大阪地方専売局の大阪第一煙草製造所が設置されますが、昭和20年(1945)3月の大空襲で焼失します。

難波新川・・・  
難波御蔵が設置された翌享保18年(1733)、御蔵への輸送路として、道頓堀川大黒橋下から全長443間半(約806m)、幅8間(約14.5m)の堀川、難波新川が開削されました。開削工事の際、享保の大飢饉などで増加していた生活困窮者を救済するために、老人、子どもでもあって希望者には土砂を運ばせ賃金を与えたので「極貧堀」とも呼ばれました。「摂陽奇観」には「此川の蜆大きにして風味よし」とあります。昭和33年(1958)に埋め立てられ、現在はその上を高速道路が走っています。

## ⑦ 大阪球場記念プレート

昭和25年(1950)、煙草工場の跡地に建設されました。自前の本拠球場がなかった南海ホークスに、野球好きのGHQ経済科学局長ウィリアム・フレデリック・マーカット少将が建設許可を出し、球場建設の資材などを提供したといわれます。戦災後の復興期、バラック小屋がひしめく中にそびえたった大規模建築は、当時「昭和の大坂城」と称されました。日本で初めて観客席下にテナントスペースを設け、この空間確保と、狭い敷地に多くの客席を設けたので、内野スタンドの傾斜は37度にも達し「すり鉢球場」と呼ばれました。南海黄金時代(鶴岡一人監督時代の通算1773勝1140敗81分・勝率6割9厘は、日本プロ野球史上1位)のエース級投手、杉浦忠、皆川陸雄らの絶妙な制球力は、グラウンドの狭さによって培われたとの伝説も残っています。昭和63年(1988)、南海ホークスがダイエーに売却され福岡に移転した後は、住宅展示場などに利用されましたが、平成10年(1998)に解体され、平成15年(2003)大型商業施設・なんばパークスがオープンしました。

【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】 大阪コミュニティツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内) 「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または「大阪あそ歩」でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。